操人形～第１幕～（シーン１）

　闇を照らす明り、その下に１人の男はいた。固く結んだ唇、瞳は何も映していないかのようだ。着物姿で、刀を持っている。「許さぬ！」と高い声が響く。と、同時に刀の銀色の光が空を切る。そして、少しの静寂がおとずれる。

　しばらくして、太鼓の音がトン、トン、トンと鳴り始めた。男は、下を向いている。太鼓の音はだんだん早くなるが、男は微動だにしない。

　すると、突然、周りが明るくなった。そして、和服姿の女が表れた。その手から伸びた糸の先には。人形。先ほどの男は、女が操る人形だったのだ。長い髪の間から見える女の表情は、無表情。いや、白い面だ。飾り気のない表情とは裏腹に、きらびやかな服に身を包んでいる。どこかの国のお姫様か。

　「ドン！」太鼓が鳴った。そちらを見ると、男が太鼓を叩いている。男は動く、動く、動く。最初はゆっ

くりだった太鼓も、すさまじい早さで叩かれている。

結美「ああっ。お父様、なんで・・・。」

　女が下を向いた。そして、ややあった後、顔に手をあてた。泣いているようだ。

　そして、太鼓の大きな音とともに、舞台の幕が下りてきた。人形劇の第１幕は終わった。